『力(エネルギー)の保存に就いて』

ヘルマン・ヘルムホルツ著（科学名著集; 第１冊）

東北帝国大学編纂、1913 年発行

東北帝国大学理科大学（後の理学部。以下「理科大学」と表記）が、学問の気風高い丸善から出版した「科学名著集」。その記念すべき第１冊目は、物理学のみならず生理学・数学・哲学・美学・音楽にまで通じ、広範な知識を総合しながら自然の諸現象を追求し続けたヘルムホルツ先生の、いわゆる「エネルギー保存の法則」についての論文です。

本書にはシリーズ刊行にあたって沢柳政太郎総長が序文を寄せており、明治維新以降、科学技術の進歩によって世の中は豊かになったが、その源泉である基礎科学への意欲が低い日本の学術界は、「今なお幼稚」だと指摘します。そして、一流の名著を親しみやすく翻訳した当シリーズが、学術界・教育界の発展の一助となることを期待する、としています。校閲者は土星型原子モデルで有名な長岡半太郎東京帝国大学教授で、シリーズ９冊すべてに力のこもった解説を寄せました。

ヘルマン・ヘルムホルツ氏

（The famous people より）

沢柳政太郎氏

（東北大学史料館写真 DB より）

長岡半太郎氏

（日本大百科事典より）

【そのころの理学部】

理科大学の創設当時、基礎科学を扱う理科は不人気な分野であり、東大・京大も理科では学生集めに苦労する中、当然、東北大でも受験者数の少ないことが予想されました。そこで理科大学は、他大学で「高等学校卒業者」に限定していた受験資格を大幅に拡大する、「傍系入学」の戦略をとりました。「傍系入学者」の中には、後に東大総長となる茅誠司氏や東海大創設者の松前重義氏、日本初の女性理学士となる黒田チカ氏などが含まれており、現在に至るまで東北大学の学風とされる「門戸開放」の始まりとなりました。

茅誠司氏

（ウィキペディアより）

黒田チカ氏

（お茶の水女子大学デジタルアーカイブズより）

【科学名著集の内訳】

第１冊：力（エネルギー）の保存に就いて / ヘルマン・ヘルムホルツ著、1913
第２冊：発散及び吸収論 / グスターフ・キルホッフ著、1913
第３冊：渦動に対応する流体力学上の諸方程式の積分に就いて/ ヘルマン・ヘルムホルツ著
　　渦動原子に就いて・渦動に就いて / ウィリアム・タムソン著、1914
第４冊：ポテンチヤル論、地磁気論/ カール・フリードリッヒ・ガウス著、1914
第５冊：電気学及磁気学における解析数学の応用に関する論文/ ジョージ・グリーン著、1914
第６冊：電波に関する論文集 / ハインリッヒ・ヘルツ著、1915
第７冊：解析力学抄 / ラグランジュ著、1916
第８冊：幾何光学論文集第１ / ガウス、サイデル、アッベ、エアリーほか著、1918
第９冊：幾何光学論文集第２ / ハミルトン、マクスウェル、レリーほか著、1919

【理学部のルーツ】

・1907（明治 40）：東北帝国大学が創設される
・1911（明治 44）：東北帝国大学理科大学が設置される（数学・物理・化学・地質の４学科）
・1919（大正 8 ）：理科大学が理学部となる